

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎附属治療所
担 当 教 員	河上修・川村智広・仲村剛・ 岩村一成・澤卓実・林了大	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
出席評価:80% レポート評価:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編第7版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にできるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版		
		各コマにおける授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-1			
第25回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-2			
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-3			
第27回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-4			
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習に関する注意事項や心構えを理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	外部実習 事前研修-1			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第29回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習に関する注意事項や心構えを理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習 事前研修-2		
第30回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習-1		
第31回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習-2		
第32回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	実習振り返り-1		
第33回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	実習振り返り-2		
第34回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の臨床的施術-1		
第35回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の臨床的施術-2		
第36回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習-3		
第37回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	外部実習-4		
第38回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと
		各コマにおける授業予定	実習振り返り-3		

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎附属治療所
担 当 教 員	河上修・川村智広・仲村剛・ 岩村一成・澤卓実・林了大	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
出席評価:80% レポート評価:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編第7版および柔道整復学・実技編第2版						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にできるように。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第39回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	実習振り返り-4			
第40回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の臨床的施術-3			
第41回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の臨床的施術-4			
第42回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	外部実習-5			
第43回	実習形式	授業を通じての到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版	前回の実習内容の振り返りを行っておくこと	
		各コマにおける授業予定	外部実習-6			

